

酒を求め、肴を求め黄昏の巷を彷徨っている私も、異郷の地を旅したときには、健全に地元の銭湯を訪ねることがあります。思い出に残っているのは福島県飯坂温泉の共同浴場鯖湖湯、京都の新京極商店街で見つけた銭湯、那覇で探した建物の二階にあった旭湯です。ススキノにも南6西5に柳湯という銭湯がありました。ひと風呂浴びてから宴会場に向かったことがあります。

出張で函館に行くと、湯の川界隈の電車通りに気になる銭湯があるのですが、このたび入浴することができた山内温泉長生湯をご紹介します。



JR 函館駅から市電湯の川温泉行きの終点湯の川停留所の近くですが、真向かいには湯川温泉郵便局があるので見つけやすいと思います。現場帰りに手ぶらで寄りましたが、無料タオルを貸してくれました。脱衣所の大きな鏡や脱衣棚が、昭和レトロを感じさせる雰囲気です。紅く火照った身体で浴室から出てきた年配の常連客を横目で見ながら、籐カゴに作業服を脱ぎ捨て、いざ浴室へ。

浴槽は楕円形で子ども用の仕切りがある懐かしい形で、床には温泉らしく肌色の析出物が固く付着していました。



いよいよ入浴…「あっちい！」とてもじゃないが熱くて入れない！ テレビ番組でやっていた熱湯地獄だ！ 先ほど、脱衣所で見た常連客の真っ赤な身体の意味が、やっと理解できました。子ども用の浴槽に水を埋めて何とか入ることができましたが、番台のお母さんに聞くと64度の源泉を常連さんの要望で47度に調整しているそうです。80年ほど前から営業している老舗なので、一度入ってみる価値はあります。話を聞きながら湯上りに飲んだフルーツ牛乳は、とても懐かしい味がしました。

■函館市湯川町2丁目20-9

湯の川電停から徒歩3分

■営業時間 AM6時からPM9時半まで

■入浴料 420円

■定休日 毎週火曜日

■TEL (0138) 59-2681

■4～5台駐車可

対馬一男 (つしま かずお)

技術士(建設/総合技術監理部門)

北武コンサルタント株式会社

